

ご注意

- 本製品が性能を発揮するよう、設置の際は本ラベルを熟読し記載通り設置してください。誤った取り付けでは効果を発揮しません。
- 重心位置が高い等バランスが悪いものは取付数を増やして使用してください。
- 設置面積が不十分な(凹凸や格子状)場合、十分な粘着力が得られません。
- 設置面のゴミ、ホコリ、水分、油分を十分に取除いてください。
- 設置後は粘着を安定させるため、2時間はふれないでください。
- 耐震マットの粘着具合は接地面の種類によって異なるため、相性表をよく確認の上ご使用ください。相性が良い場合でも設置面が劣化し脆くなっている場合や、強度が低い場合は使用できません。
- フッ素樹脂加工など撥水性のものには使用できません。
- 耐用年数は7年です。7年経過後は、取り替えてください。
- 50℃以上かつ湿度60%以上の環境では耐用年数が短くなることがあります。
- 経年変化により変色する場合がありますが、基本性能には問題がありません。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所での保管は避けてください。
- 保護フィルムを貼った状態で保管してください。
- 保護フィルムは必ずはがして、ご使用ください。
- 本製品で物を吊り下げないでください。
- 取り外し後、材質によっては設置場所と周辺に差が生じる場合があります。
- 地震が発生した場合は、異常がないか確認してください。

■耐震マットと設置面の相性

※設置したい場所にテープ(セロハンテープ、ガムテープ)が、シッカリと粘着すれば使用可能です。

設置面の種類	粘着性	設置面の種類	粘着性
金属	○	フローリング	○
PVC(硬質塩化ビニル樹脂)	○	フロアタイル	○
ABS	○	クッションフロア	×
PC(ポリカーボネート樹脂)	○	塗装済コンクリート(エポキシ・メラミン系)	○
PE(ポリエチレン)	×	カーペット	×
PP(ポリプロピレン)	×	畳	×
フッ素樹脂、フッ素加工	×	撥水加工、防汚加工	×



ミライの耐震部材

ピタ7

ベルトストッパー

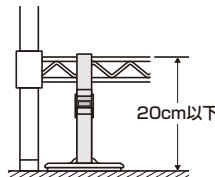
取扱説明書

●設置物の重さ：100kgまで(4コ使用時)

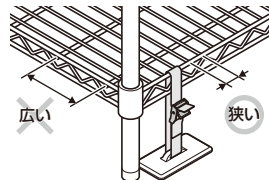
※2コ使用時は50kgまで

設置条件

- ベルトの通す高さが、20cm以下であること。



- ベルトはワイヤー間隔が狭い方に通してください。



- スチールラックに取り付けることで地震対策ができます。

※震度7相当(兵庫県南部地震(阪神大震災)再現波の1.2倍)の耐震試験にて効果を確認

- 本製品は地震の被害を軽減する商品です。本製品使用により発生した破損事故や地震による損害に対して責任を負うものではありません。

樹脂製 屋内用

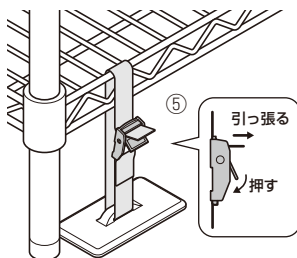
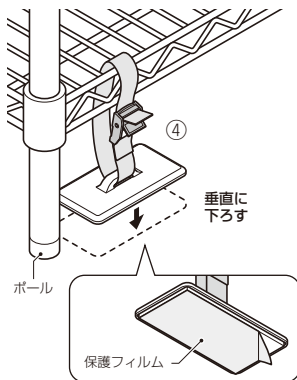
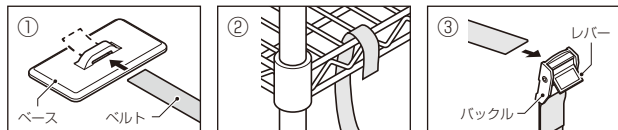


未来工業株式会社

P7P-BTK 7022P

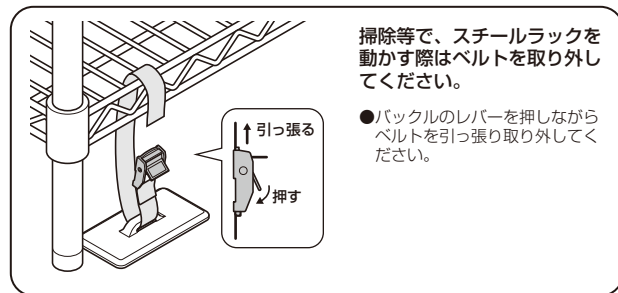
設置方法

●耐震マット貼り付け面のホコリ・油・水等をシッカリと取り除きます。



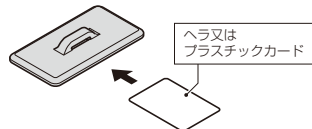
- ①ベルトをベースに通します。
- ②ベースを設置場所に仮置きし、ベルトを棚に通します。
※ベースはなるべくポールに近い場所に設置してください。
※ベルトはワイヤー間隔が狭い側に通してください。
- ③バックルのレバーを押しながら、ベルトをバックルに通します。
※ベルトは締めあげず、たるんだ状態にしておいてください。
- ④耐震マットの保護フィルムをはがし、ベースを垂直に下ろして、床に貼り付けます。
※ベルトにねじれがないことを確認して設置してください。
- ⑤ベルトにたるみがないようバックルのレバーを押しながら、ベルトを引っ張り長さ調整します。
※引っ張りすぎて耐震マットに負荷がかからないようにしてください。
※余ったベルトは必要に応じてカットしてください。

●施工完了後、添付の施工日シールに施工した日を記載し、製品に貼り付けてください。



取り外し方

- ①バックルのレバーを押しながらベルトを取り外します。
- ②ヘラや薄いプラスチックカード等に水で薄めた中性洗剤を塗り込み、マットと設置面の間に差し込んで、端からゆっくりとひねりながらはがしてください。
※どうしてもはがれない場合は中性洗剤の代わりに消毒用エタノールを塗り込むか、貼り付け面に噴霧してご使用ください。ただし、設置面や設置物を変色させる恐れがあるためご注意ください。



再使用時のご注意

- 再使用される場合は、必ず水洗い後、完全に乾いてから使用してください。
- 油分やホコリなど水洗いでは落ちない場合には、中性洗剤で洗ってください。
- 酸性、アルカリ性の強い洗剤は粘着力が低下してしまう恐れがあります。
- 洗浄後、ゴミ、油分等が残っている場合は、粘着力が低下している恐れがあります。